富士山世界遺産コラム　　2024 年 6 月 1 日《vol.25》

富士山に挑んだ外国人列伝①　～エドワード・H・ハウス～

〈静岡県富士山世界遺産センター　学芸課　准教授　井上　卓哉〉

幕末の万延元年（1860）、初代英国駐日公使のラザフォード・オールコックは、外国人として初めて富士山の頂を踏みました。明治時代に入ると、オールコックの後を追うように、多くの外国人が富士山へと挑んでいますが、彼らの中には、その際に見聞した事をまとめて書籍として出版した人物もいます。それらの書籍に記された情報からは、当時の富士登山の状況や信仰観、さらには彼らにとって日本人がどのように映ったのかということなどを知ることが可能です。

当センターでは、上記のような理由から、外国人による富士登山の記録が所収された書籍を貴重な資料として捉え、収集を進めています。今回のコラムでは、令和5年度に収集した書籍のうち、アメリカ人ジャーナリスト・英語教師であるエドワード・H・ハウス（以下ハウスと記載）の″JAPANESE EPISODES（日本の事実）″(1881/JAMES R. OSGOOD AND COMPANY,BOSTON)に所収された明治3年（1870）の富士登山をご紹介します（写真1）。

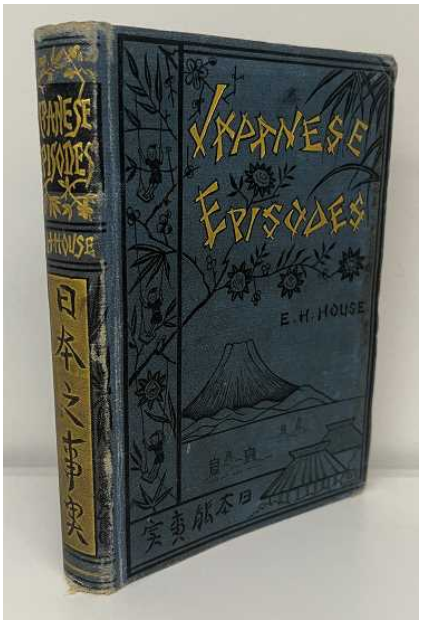

写真1　JAPANESE EPISODES

1836 年にアメリカのボストンで生まれたハウスは、1870 年にニューヨーク・トリビューン紙の特派員として日本に派遣されます。日本滞在中に執筆した記事をアメリカの各紙に寄稿しながら、大学南校（後の東京大学）で教鞭（きょうべん）を執ったほか、1874 年の明治政府による台湾出兵に従軍した記者としても知られています。初来日以降、1901 年に亡くなるまで、ほとんどの時期を日本で過ごし、遺骨は谷中霊園に埋葬（まいそう）されています。死の直前には、明治天皇より勲二等瑞宝章（くんにとうずいほうしょう）を授与されていますが、その推薦文は大学南校の教え子であった小村寿太郎が認（したた）めました（国立公文書館デジタルアーカイブ 「北米合衆国人エドワルド、エチ、ハウス叙勲（じょくん）ノ件」（請求番号：勲00082100-052））。

さて、ハウスは 1870 年の来日直後に3人の仲間とともに、富士山へと挑んでいます。その行程は、表1（″JAPANESE EPISODE″に所収された内容を現代的に編成したもの）に示したように、9 月 3 日に横浜を出発し、小田原、箱根（宮ノ下）を経て須走に至り、須走口登山道を利用して 9 月 6 日に富士山の登頂を目指すものでした。なお、帰路は須走に下り、三島、箱根（芦ノ湖・畑宿）、小田原、江ノ島を経て 9 月 9 日に横浜に戻っています。

表1

エドワード・H・ハウス御一行様　旅行日程表

行き先	富士山
期間	1870年（明治3年）9月3日～9月9日

#	Days	日付	種別	出発	到着	イベント	内容	移動手段
1	1	1870/9/3	移動	7:30	12:00	横浜→酒匂川	東海道利用・大山をごらんください。	馬車
2			移動			酒匂川徒歩渡し	輦台（れんだい）に乗っていただきます。	その他
3			移動			酒匂川→小田原	地元の若者が付き添います	徒歩
4			休憩			小田原	散策と買い物（草鞋）をお楽しみください。	
5			移動		夜	小田原→箱根宮ノ下	道中に縄の吊り橋があります。	駕籠
6			食事			宮ノ下宿屋	持参した缶詰となります。	
7			宿泊			宮ノ下宿屋	温泉がありますが、入る時間は設けていません。	
8	2	1870/9/4	食事			宮ノ下宿屋	朝食は短時間で済ませてください。	
9			移動	朝	午後	宮ノ下→須走		駕籠
10			食事			須走宿屋		
11			観光			地元の若者による相撲の披露		
12			宿泊			須走宿屋		
13	3	1870/9/5	移動	3:00	夕方	須走→富士山8合目	駕籠で行くことができる場所は限られています。道中で金剛杖を購入できます。	徒歩＋駕籠
14			宿泊			富士山8合目	山小屋の営業時期は終了していますが、扉を開けてお休みください。また、水がありませんので、ガイドが山頂からお持ちします。	
15	4	1870/9/6	移動	3:00	7:00	富士山8合目→山頂		徒歩
16			観光			お鉢めぐり		徒歩
17			移動	9:00		山頂→富士山8合目	砂走をお楽しみください。	徒歩
18			食事			富士山8合目 （米・卵・ジャガイモ・煮込んだハムと牛肉・青トウモロコシ・お茶・ビール）	リヒトフォーフェン博士とワグネル博士が登ってこられます。	
19			移動	12:00		富士山8合目→須走	途中から駕籠をご利用いただけます。	徒歩＋駕籠
20			宿泊			須走宿屋	お風呂をお楽しみください。登山の精算を行います。	
21	5	1870/9/7	移動	朝	午前	須走→三島		駕籠
22			休憩			三島本陣	庭園をお楽しみください。	
23			移動	12:00		三島→芦ノ湖		駕籠
24			観光			芦ノ湖	ボートで湖を探索します。	ボート
25			移動			芦ノ湖→畑宿		駕籠
26			宿泊			畑宿宿屋	宿の女性による踊りと三味線演奏をお楽しみください。	
27	6	1870/9/8	観光			畑宿の草鞋作りと寄木細工見学	子どもたちによる笛の演奏があります。※笛代をお支払いください。	
28			移動			畑宿→小田原		駕籠
29			移動			小田原→片瀬	船酔いにはご注意ください。	ボート
30			宿泊			片瀬	片瀬は外国人の影響により、風紀が乱れていますので、ご注意ください。	
31	7	1870/9/9	移動	朝		片瀬→江ノ島	屈強な男たちの肩に乗ってください。	肩車
32			移動		夜	江ノ島→横浜		ボート

※この表は、EDWARD H. HOUSEの"JAPANESE EPISODES"内に所収されている富士山への旅行の記載を現代的な旅行日程表として編成したものです。

ハウスは、道中の出来事や景色を詳細に記載するほか、欧米との比較を通して日本人との思想の差異を指摘しており、本書は明治時代初期における日本の状況を知るための重要な資料であると指摘できます。なかでも、富士山中では、以下のような、これまでに知られていなかったような情報を確認することができます。

まず、9 月 5 日に須走を出発し、富士山の 8 合目に向かっている途中、ハウス一行は 4 人の登山パーティに追い越されていますが、この 4 人パーティのうち、2 人が若い女性であったと記しています。さらに、この女性たちは、ズボンを膝(ひざ)上までまくり上げて登っており、ハウス一行はその姿に羨望(せんぼう)の念を込めたといいます。ハウスの登山に先立つ 1867 年に第 2 代英国駐日公使のパークスの夫人、ファニー・H・パークスが外国人の女性として初めて富士山に登ったことを契機(けいき)として、富士山の女人禁制の解除の機運が高まり、1872 年の女性登山解禁に至るとされていますが、解禁前にも女性が富士山に確実に登っていたことを示す重要な情報といえるでしょう。

次に、富士山への登頂を終えて、須走へと戻ってきた際に、ハウス一行は、宿屋にて登山にかかった費用の精算を行っています。その費用が想定以上に高かったようで、彼らが理由を確認したところ、登山が晴天のうちに終わったことによる料金の割増であるという説明を受けています。さらに、富士山において天気が安定していた背景には、麓の宗教者による祈禱(きとう)の結果であり、宿の経営者がその代金をもらうのではなく、宗教者へと送金されるという説明を受けますが、ハウス一行は納得せず、減額の交渉をおこない、それは無事果たされたようです。いずれにしても、富士山の天候までが登山に関わるサービスとして請求の対象になっていたという情報は、これまでの富士山の登山や信仰に関わる研究において指摘されてこなかったものといえます。

このように、ハウス一行の旅の記録からは、これまで知られていなかったような情報を見い出すことができます。このことは、同時期の他の著者による書籍においても同様であり、その内容の確認を進めていくことで、信仰の山から観光の山へと大きく転換した明治時代の富士山の状況をより深く知ることが可能になるといえるでしょう。